

# 同窓會報

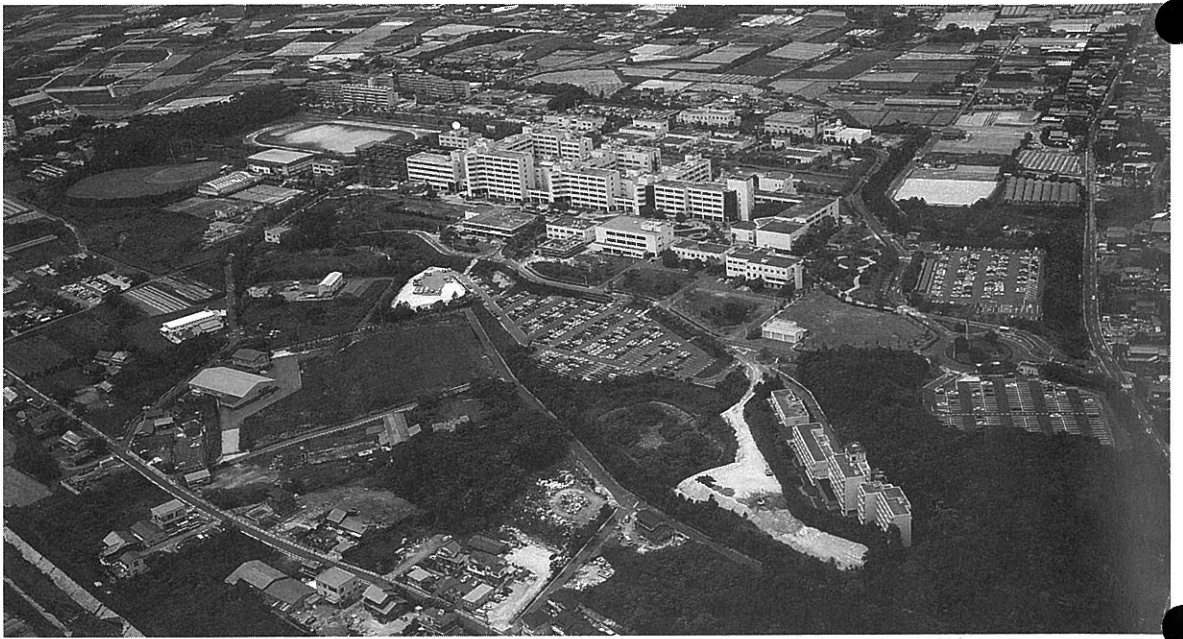


時計塔除幕式（開学二十周年記念）

第 14 号

'96. 12. 15

豊橋技術科学大学同窓会



# 開学20周年記念事業を終えて

豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問 学長 後藤 圭 司



実践的・創造的な能力を備えた  
指導的技術者の養成という社会的  
要請に応えるため、実践的技術  
の開発を主眼とした教育研究  
を行なう大学院に重点を置いた  
新しい構想による大学として、

● 本学は昭和51年10月に開学しました。以来、各方面  
の方々の多大なご支援をえて順調に発展し、現在では  
教職員数約400名、学生総数約2000名を擁するまで  
になっています。

初代学長 榊米一郎先生の時代の昭和53年4月か  
ら学生の受け入れが開始されました。当時は学部6課  
程と人文・社会や語学等の全学共通部門がありました  
が、第二代学長 本多波雄先生、第三代学長 佐々木  
慎一先生をはじめ教職員の努力と多くの関係者のご支  
援をえて、今では、工学系は機械システム工学、生産  
システム工学、電気・電子工学、情報工学、物質工学、  
● 建設工学、知識情報工学、エコロジー工学の8分野に  
まで拡大しています。また、大学院工学研究科博士後  
期課程は機械・構造システム工学、機能材料工学、電  
子・情報工学、環境・生命工学の4専攻に拡充されまし  
た。

平成3年の大学設置基準改正を契機として、今、全  
国の大学で様々な改革が進められています。特に目立  
つことは、教養部を解体して、教養科目を積み上げ方  
式ではなく、学部までの一貫教育を図るための改革、

3年次編入学を定員化して入試の多様化を図ること、  
大学院教育の重点化、産学交流やリフレッシュ教育等  
の社会に開かれた大学をめざす事業、等を挙げること  
ができます。ご存知の通り、これらは本学では開学当  
初から既に実施して来ており、大学改革の先兵として  
大きな役割を果たして来たと言えます。別  
の見方をしますと、本学は設立当初の役割を終え、来  
たるべき21世紀への新たな飛躍に向けて、今後の目  
標を明確にすることが求められている所です。「新た  
なる飛翔 テクノトピア21」を開学20周年記念事業  
の統一テーマに選定した理由はここにあるのです。

私達は、将来計画調査会を発足させ、本学の進むべ  
き目標を新たに検討中です。創造力と国際性豊かな実  
践的技術者の養成のための教育体制の再検討、管理運  
営組織のスリム化、全学的な研究協力体制、留学生教  
育と国際協力、さらには生涯教育や産学交流等地域社  
会との連携の強化、等を行なって、国際的にも認めら  
れる科学技術立国の実現に役立つ人材の育成に務めな  
ければなりません。開学20周年を迎えたこの機会に、  
全卒業生の皆さんにアンケート調査を行なった目的は  
ここにあるのです。頂戴した貴重なご意見をまとめ  
て、本学の今後の方向づけに役立たせて戴く予定で  
す。

終わりに、開学20周年を記念して図書館前に時計  
塔を設置し、寄贈下さった皆さんに厚く御礼申し上げ  
るとともに、今後のご活躍をお祈り致します。

# 豊橋技術科学大学 20周年記念事業

副学長 堤 和 男



時代、地域および工業高等専門学校  
の熱い期待を背景に昭和51年に創立した本学も、今年で20才の成年となった。一期生として昭和53年に入学した諸君はすでに不惑を直前にしており、本学を巣立った総数約4800名の同窓生が社会の第一線で活躍さ

れている様子が伝えられ頼もしい限りである。

この20年間に社会および本学を取り巻く環境には大きな変貌があった。創立の頃は第二次石油ショックの最中であり工業立国のための技術者の養成が急務とされたが、その後はバブル景気に世間が酔いしれ3Kなどという嫌な表現が理工学を学ぼうとする学徒の神経を苛立たせた。時代が昭和から平成に移ると共にバブルは文字通りはじけ、気が付いてみたら発展途上国と思われた国が工業化を進めて背後に迫ってきていた。バブルの時代には採用に糸目を付けなかった企業も、この数年は採用数が激減し在学諸君にとっては就職が大きな関門となっている。大学においてはその学生数が本年初めて2000名を越え、創立時に6工学系1学系であった組織も8工学系1学系と増え、博士後期課程も4専攻を有す規模になっている。

成人式とも言うべき20周年記念事業は昨年度において企画され、浮かれることのないようにしながら節目としての行事が本年度初頭から実施された。その統一テーマは「新たな飛翔 テクノトピア21」である。

今年は豊橋市制施行90周年にも当たり幾つかの事業が合同で行われた。5月には「技科大フェア」が豊橋ハイテク振興会主催の「TES'96ハイテクフェア」と合同で豊橋技術科学大学および西幸町のサイエンスコアを会場として行われた。研究室公開の他大学対抗ロボットコンテストで優勝をしたロボットの実演が人気を博した。また、「コンピューター応用技術の最前線—コンピューターで人間の機能に迫る」をテーマにしたセミナーも開催された。

9月には「国際交流と留学生」をテーマに国際交流

に関するシンポジウムが財団法人豊橋市国際交流協会と共催で行われた。アグネス・チャンによる基調講演は、香港時代に始まり日本での歌手生活その後のカナダへの留学あるいはボランティア活動など自らの体験を基にした国際交流の意義を歌を交えて行われた。次いで、「留学生の生活と市民との交流」に関して留学生などによる活発な討論が行われ、豊橋における国際交流の進展振りが紹介された。

10月9日には大学を会場に記念式典などが行われた。先ず同窓生の浄財を基にして建立されたモニュメント—時計塔—(本会報表紙参照)の除幕が行われた。塔には二基の時計が設置され、また20周年事業の一環として行われた学章募集の優秀作品1点および佳作2点が付置されている。学章は全国からの応募作品836点から教職員・学生による審査を経て決定したもので、今後大学のシンボルマークとして大学旗などにも使用される。優秀作品(図参照)はTUTをモチーフに学生の創造的な姿を波でエネルギーに表現したものである。塔は図書館前に位置しているの、同窓生諸君にあらわれては自らの貢献を是非ご覧頂きたい。午後からは各来賓・教職員・学生の列席のもとに記念式典と講演会が催された。式典の祝辞では本学の20年間の発展への賛辞と今後への期待が寄せられた。講演は有馬朗人理化学研究所長(前東京大学総長)により「21世紀のために」と題して行われ、大学の 대중化と大学の役割、日本の科学技術、日本人の独創性、および若者に希望を、のサブテーマについて今後の大学における教育・研究のあり方に関し示唆に富む内容で



記念式典で式辞を述べる後藤圭司学長

あった。その後の祝賀会には学外から多くの諸先輩が出席された。大学祭では例年以上の研究室が公開され、20周年を記念して日頃の研究成果が披露された。

10周年の際と同様に今回も「豊橋技術科学大学二十年史」の編纂・発行を行った。「開学まで」、「成長のとき」および「発展のとき」と風化しがちな歴史的背景を記載し後世に残すようにする一方、大学の現状・問題点と未来への展望を多角的に分析・紹介している。様々な事業・行事に取り組んだ教職員・卒業生のコラム欄が味付けとして載せられているので、是非ご一読願いたい。

20周年を記念して卒業生へのアンケート調査を行った。大学教育の感想・評価、本学の特徴点の評価、現在の職場と本学との関連などの他自由意見の徴集も行ったが、その詳細は「二十年史」に記載されているので参照されたい。本調査は開学以来初めての本格的なものであり、本学自己評価への反映および今後の本学

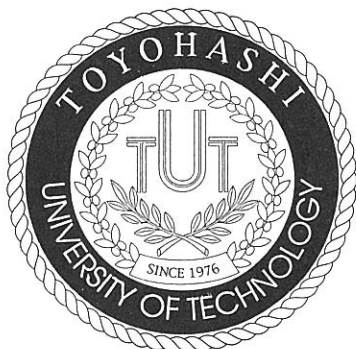
の方向付けへの一助になるものである。30%近い卒業生からの回答が寄せられ、ここに諸君のご協力への感謝を記したい。

以上、豊橋技術科学大学20周年記念事業の報告を簡単にしたが、本事業は決してお祭り気分で開催したものではない。日本における大学の置かれている現状は決して楽観できるものではなく、また本学を取り巻く環境は逆風と言っても過言ではない。節目を持つことにより、来るべき21世紀への踏み台にしようとするものである。

同窓生諸君は未だお若いので母校を懐かしむという境地には程遠いと思うが、本学が豊橋の地で世界を相手に存在をアピールしていることを認識して頂きたい。折りをみて母校を訪ね、恩師との語り合いと変貌しつつある学舎そして都市豊橋を眺めるのも、多忙な生活の中での一服の清涼剤になるのではなからうか。



豊橋技術科学大学



新しい学章（上段優秀作品，下段佳作）

# 学 内 近 況 報 告

## 機械システム工学系

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。後かたづけが少し雨にたたられましたが、今年の技科大祭も盛況のうちに無事終了しました。

エネルギー工学系を卒業、修了された方がこの欄のエネルギー工学系がなくなっているのを見て驚かされているかも知れません。本年度からエネルギー工学系は中身を変えず、名前を機械システム工学系に変えました。これまで、企業の関係者や大学への訪問者にエネルギー工学系が機械系の学科であることを説明することにかなり時間を割いていましたが、名前を機械システム工学系に変更することでこの苦勞がなくなりました。教育内容や研究内容は以前と全く変わりませんので、卒業生、修了生の皆様は機械システム工学系が以前のエネルギー工学系であると思ってこれまでと同様に取り扱って下さい。

さて、機械システム工学系の教官の移動状況をお知らせします。皆様もご存知の通り、後藤先生が見事に学長選挙で当選され本年度からは学長になりました。第1講座の鈴木孝司先生が講師に昇任されました。第2講座の小沼先生の研究室に山本和弘氏(東京大学大学院博士課程修了)、第2講座の蒔田先生の研究室に関下信正氏(本学大学院博士課程修了)の2名の

## 生産システム工学系

卒業生、修了生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。今年も昨年同様、就職戦線にはかなり厳しいものがありましたが、なんとか皆頑張ってそれぞれの進路を決めることができました。

今年度の系教官の異動状況をお知らせします。各大講座ともに、研究室構成スタッフの若干の変動がありました。

まず、加工学大講座では、池野順一講師が工作センター講師に配置換えとなり、高巢周平助教が着任さ

## 中 川 勝 文

新人の助手が採用されました。

転出された先生は、第3講座のDzimko Marian先生で母国スロバキアに戻られました。インドネシアに長期出張の本間先生は来年6月までの予定です。

以上の移動の結果、機械システム工学系の職員の構成は以下のようになっています。

[第1講座(熱・流体工学講座)]

教 授：三田地紘史，日比 昭

助 教 授：中川勝文，北村健三，柳田秀記

講 師：鈴木孝司

助 手：中西康彦

[第2講座(エネルギー変換工学講座)]

教 授：小沼義昭(系長)，蒔田秀治，高木章二

助 教 授：野田 進，鈴木新一

助 手：内山直樹，山本和弘，関下信正

[第3講座(機器設計学講座)]

教 授：竹園茂男，本間寛臣，上村正雄

助 教 授：埜 克己，畔上秀幸，関東康裕

助 手：咸本広文

教務職員：李 長生

[技 官] 徳増 学，森川正治，神谷昌宏

[系事務] 長井一彦，野亦真理子

## 福 本 昌 宏

れました。これにより研究室は、塑性加工(中村，牧，原田)，接合加工(星，福本，王)，精密加工(堀内，高巢，池野)となりました。

次に材料学大講座では、竹中俊英講師が助教授に、またKrishnamurthy Raviprasad教務職員が助手にそれぞれ昇任されました。また永年勤められた村田純助教教授が名古屋大学助教授に転任されました。さらに金 憲珠助教授が任用期間を終え、韓国釜山工業大学校に戻られました。これにより研究室は、製錬工学

(川上, 竹中, 横山), 機械材料 (梅本, 新家, 増山, Raviprasad), 材料保証 (小林, 山本) となりました。

最後に生産計画学大講座では, 永年勤続された小野木教授が名古屋大学教授に転任され, また兼重明宏助手が大島商船高専助手に戻られました。その結果各研究室は, 工程制御 (寺嶋, 濱口), 計測システム (北川, 三宅, 堀畑), システム解析 (崔, 橋爪) となりました。

この様な異動をまとめて, 現在の2系教職員は以下のようになっています。

#### [加工学大講座]

教授: 星鐵太郎 (系長), 中村雅勇, 堀内 宰 (工作センター長)

助教授・講師: 高巢周平, 牧清二郎, 福本昌宏, 池野順一 (工作センター)

助手・技官: 王 力翬, 原田泰典, 小楠和彦

## 電気・電子工学系

秋もいよいよ深まってまいりましたが, 卒業生, 修了生の皆様はいかがお過しのことでしょうか。時が過ぎるのは速いもので, 豊橋技術科学大学は創立20周年を迎え, 先日, 記念式典が盛大に行われました。

この1年の間, 電気・電子工学系の教職員の大きな移動がありましたので, お知らせいたします。

まず, 基礎電気電子大講座では, 4月にカバレロフ・ワジム先生が講師に昇進され, 河野健二先生が鉄道総合技術研究所から教務職員として赴任され, そして6月から大越昌幸先生が理化学研究所から助手として赴任されました。嶋田哲也先生が1月に東京都立大学の助手として移られ, 岐阜高専から赴任しておられた福永哲也先生が, 2年間の任期を終えられ, 4月から前職に戻られました。

電気システム大講座では, 4月に滝川浩史先生が釧路高専から講師として, 東京工業大学博士後期課程を修了された伊藤衡平先生が助手として赴任されました。榊守先生が2年間の任期を終えられ, 釧路高専の助教授として戻られ, そして中川重康先生が同様に2年の任期を終えられ, 講師として舞鶴高専へ戻られました。

電子デバイス大講座では, 総合研究大学院大学の博

#### [材料学大講座]

教授: 小林俊郎, 川上正博, 梅本 実, 新家光雄

助教授・講師: 竹中俊英, 横山誠二

助手・教務職員・技官: 山本 勇, 増山圭一,

Krishnamurthy Raviprasad,  
白井宏始

#### [生産計画学大講座]

教授: 北川 孟 (専攻長), 寺嶋一彦 (系長補佐)

助教授・講師: 三宅哲夫, 崔 文田

助手・技官: 堀畑 聡, 橋爪 進, 濱口雅史,  
椿 正己

系事務室には, 青木圭子さんがおられます。

最後に, 2系教職員一同, 卒業生, 修了生の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りしております。

## 内 田 裕 久

士後期課程を修了された吉越章隆先生が助手として4月に赴任されました。また, 本学創立後まもなく赴任され, 教育および研究にご尽力を頂きました並木章先生が4月から九州工業大学へ教授として移られました。

このような移動の結果, 電気・電子工学系の教職員は以下のような構成になっています。

#### [基礎電気電子大講座]

教授: 藤井壽崇 (技開センター長), 英貢 (系長補佐), 太田昭男

助教授・講師: 服部和雄, 井上光輝 (技開センター),  
カバレロフ・ワジム, 内田裕久

助手・教務職員・技官: 大越昌幸, 河野健二,  
菊地 章 (技開センター),  
前田勝典

#### [電気システム大講座]

教授: 小崎正光, 恩田和夫, 榊原建樹

助教授・講師: 長尾雅行, 滝川浩史

助手・技官: 村本裕二, 見目善重, 伊藤衡平,  
日比美彦

#### [電子デバイス大講座]

教授: 吉田明 (系長), 米津宏雄

助教授・講師: 朴 康司, 石田 誠, 辛 長奎

助手・技官：松本佳宣，大島直樹，吉越章隆，  
足木光昭

この他，在外研究員としてイギリスに滞在されていた朴康司助教授，そしてベルギーに滞在されていた石

田誠助教授が7月に帰国されました。

卒業生，修了生の皆様のご健康とますますのご発展，ご活躍をお祈りいたしております。

## 情報工学系

卒業生，修了生のみなさん，元気でご活躍のことと  
思います。

さて，本年も昨年に引き続いて，多くの先生方の異  
動がありました。

まず計算機大講座では，教授の今井正治先生が大阪  
大学基礎工学部へ，湯浅太一先生が京都大学大学院工  
学研究科情報工学専攻へ転任されました。さらに，助  
手の塩見彰陸先生が静岡大学情報学部講師として転任  
され，青山義弘先生が福井工業高等専門学校電子情報  
工学科に戻られました。

また情報処理大講座では，教授の伊藤宏司先生と助  
手の鄭心知先生が東京工業大学大学院総合理工学研究  
科知能システム科学専攻に転任されました。代わって  
7月には，(株)国際電気通信基礎技術研究所より宇野洋  
二先生が教授として赴任されました。なお講師の戸田  
尚宏先生は8月に助教授に昇任されました。

また情報システム大講座では，日本電信電話(株)通信  
網研究所より伊藤大雄先生が講師として，さらに7月  
には郵政省通信総合研究所より横山光雄先生が教授と  
して赴任されました。なお講師の川人祥二先生は本年  
1月に助教授に昇任されました。

このような異動により，現在の情報工学系の教職員  
は次のようになっています。

## 井上克己

[計算機大講座]

教 授 中川聖一  
助 授 梅村恭司，井上克己  
講 師 奥山 徹  
助 手 峯松信明  
教務職員 貴島寿郎  
技 官 片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教 授 金子豊久，臼井史朗，宇野洋二  
助 授 戸田尚宏  
講 師 片山正純  
助 手 廣田光一，中内茂樹

[情報システム大講座]

教 授 宮崎保光，田所嘉昭，横山光雄  
助 授 後藤信夫，川人祥二  
講 師 伊藤大雄  
助 手 黄 新民，肖 業貴  
技 官 宮脇治雄

今年度の情報工学系系長は臼井先生であり，系長補  
佐は宮崎先生，就職担当は金子先生です。今年の就職  
状況は昨年よりは少し良くなったものの，厳しい状況  
には変わりありません。卒業生・修了生みなさんのご  
支援のほど，よろしくお願いします。

最後に，教職員一同，卒業生・修了生のみなさん  
のご健康とご発展をお祈りしております。

## 物質工学系

卒業生，修了生の皆様にはお元気でご活躍のことと  
お喜び申し上げます。本学は一つの区切りとも言える  
開学20周年を迎えました。物質工学系にとりまして

## 水嶋生智

も今年は異動が比較的多く，ちょっとした節目のよう  
な1年であったと思います。

まず，佐々木慎一学長が本年3月をもちまして任期



を終えられ、退官されました。佐々木先生には物質工学系教授時代から系長、副学長、そして学長と長きにわたり物質工学系ならびに本学のために多大なるご尽力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

4月からは後藤圭司学長を中心とする新執行部の基での新たなスタートが切られたわけですが、その中に堤和男先生が副学長として加わることとなりました。教育や研究、そして系長として系全体のとりまとめにご努力されてきた堤先生の転任は物質工学系にとりましては大きな痛手とも言えますが、今後は本学全体のリーダーとしてのご活躍を期待致しております。

また3月にはPezzotti Giuseppe先生が京都工芸繊維大学に助教授として転任されました。一方、4月には西宮伸幸先生、本山幸弘先生が、7月には武 静先生が新たなスタッフとして加わり、現在の物質工学系の構成は以下になりました。

#### [工業無機化学大講座]

応用物理化学研究室	亀頭 直樹 教授
	大串 達夫 助教授
	佐藤 裕久 助手
無機材料工学研究室	逆井 基次 教授
	前田 康久 講師
無機物性工学研究室	角田 範義 助教授
	水嶋 生智 講師
	大北 博宣 教務職員

#### [工業分析化学大講座]

分離定量分析化学研究室	神野 清勝 教授
	平田 幸夫 助教授
	武 静 教務職員
化学工学研究室	小松 弘昌 教授
生化学研究室	青木 克之 教授

吉田 祥子 講師

#### [工業有機化学大講座]

有機材料工学研究室	伊藤 浩一 教授 (系長)
	伊津野真一 助教授
	川口 正剛 助手
応用有機化学研究室	西山 久雄 教授
	永島 英夫 助教授
	本山 幸弘 助手
複合材料工学研究室	竹市 力 助教授
	西宮 伸幸 助教授
	松本 明彦 助手

#### [分析計測センター]

状態分析化学研究室	加藤 正直 助教授
	服部 敏明 助手

#### [技 官]

太田 初一  
斉藤 年秀

#### [事 務 官]

奥田 重美

開学から20年を迎え、同窓会も会員数約五千人に至ります。これだけ大きくなりますと大学全体での名簿管理が困難となりつつあり、最近では各系で同窓会を発足する動きが出てきました。もうすでに活動を開始している系もあります。物質工学系ではまだ正式な同窓会はありませんが、とりあえず名簿管理だけでも充実させるため、水嶋、川口、佐藤、大北の4名の同窓会役員で記載事項の確認、入力等を行っております。物質工学系OBで今後異動等が生じた方、あるいは同窓会報が届いていないという方をご存じでしたら是非ご一報下さいますよう、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り致します。

## 建設工学系

## 栗 林 栄 一

御承知のとおり本年10月で開学20周年を迎えました。また本年3月には17期の学部卒業生を送り出しました。20周年記念事業に対する卒業生皆様様の御芳志、御労作に心より御礼申し上げます。

特に卒業生皆様を対象としたアンケート調査では

40%に及ぶ回答を御寄せ下さり、有難うございました。今後のカリキュラム編成に寄せられた御意向を是非採り入れて参りたいものと存じております。系長本間先生そして補佐の角先生をはじめ、ほとんど全教員が中村先生を中心にカリキュラムの再編成、再検討に

取り組んでいます。

卒業生の皆様へのアンケート調査の回答の中には“高専との人事交流が高専から技大への一方通行になっていないか”よって“高専のカリキュラムの内容に暗いのではないか”など痛い所を衝く御意見もありました。心して是正、否反省をいたさねばと教員一同頭を抱えている次第であります。

昨年末以降の教員の動静をお伝えします。構造講座においては、平成7年12月に建群(Jiang, Tiangun)先生が助手としてJR総研から、平成8年4月に河野先生が助手として米国のコンサルタンツ・ファームから、同時に卒業生である辻子裕二先生が助手として福井高専からそれぞれ着任されました一方、浅草肇先生は平成8年4月に筑波技術短期大学へ助教授として栄転されました。

環境工学講座においては平成7年12月から8年10月にかけて松本博先生が文部省在外研究員としてカナダの国立研究機構、建設技術研究所に滞在されました。一方北田敏広先生と木曾祥秋先生はエコロジー工学課程を本務としており、その充実に伴い、建設工学課程から次第に遠ざかりつつあることは淋しい限りであります。

計画講座においては平成8年4月に加藤彰一(あきかず)先生が助教授として名古屋大学から、また吉田友彦先生が助手として京都大学大学院を終えて着任されました。一方、瀬口哲夫先生は同時に名古屋市立大学の教授として栄転され、また大塚毅彦先生は明石高専の助教授として帰任されました。

別添図葉にありますようにインターネットに載せてホームページを開設しました。アクセス・コードを再

記します。

<http://www1.tutrp.tut.ac.jp/>

また、電子メールのコードを記します。

[webmaster@tutrp.tut.ac.jp](mailto:webmaster@tutrp.tut.ac.jp)

建設系の動静については上記のホームページならびに平成8年末に出版される予定の建設工学同窓会名簿1996年版を参考になさして下さい。

卒業生諸兄諸姉皆様の一層の御健闘をお祈りします。

## 知識情報工学系

卒業生・修了生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか？さて、知識情報工学系の状況についてお知らせいたします。

分子情報工学講座のデル・カルピオ先生が4月より8系へ移られ、本多一彦先生が4月より名古屋文理短期大学へ講師として転任されました。また、4月に助手として任用された後藤仁志先生は6月に東北大学化学

## 赤松 隆

研究所付属有機資源材料化学研究センターへ転任されました。機能情報工学講座の江浩先生は4月より郵政省通信研究所へ転任され、神山斉己先生は4月より情報処理センターへ移られました。

情報科学講座に吉田敦先生が4月より着任されました。分子情報工学講座に栗田典之先生が7月より着任され、スラニナ・ゼネック先生が8月より着任されまし

た。

以上の異動を含めた平成8年11月現在の知識情報工学系の現況は、以下の通りです。

[情報科学コース]

教授：齊藤制海，磯田定宏  
助教授：増山 繁，河合和久  
助手：徐 粒，吉田 敦

[分子情報工学コース]

教授：大澤映二，阿部英次，スラニナ・ゼネック  
助教授：高橋由雅，船津公人  
助手：栗田典之

[機能情報工学コース]

教授：伊藤嘉房，山本眞司  
助教授：杉田陽一  
助手：ラザフィマナンテナ・エドアルド・アンジ  
アナリジャウナ

[社会経済情報工学コース]

助教授：赤松 隆

[事務室]

教務係（技官）：小西和孝  
学務係：熊谷政希

[学生現員]

学 部：1年次11名，2年次15名，3年次52名，4年次62名

修 士：1年次39名，2年次42名

博 士：1年次4名，2年次9名，3年次3名

各研究室の活動等については、ほぼ全ての研究室でWWWホーム・ページが開設され、より詳しい状況の紹介がなされていますので、そちらをご覧ください。また、各先生方も全員E-mailを利用されていますので、忙しくて“天伯”まで来られる時間のとれない方もインターネットを通じて、お気軽に“お越し”下さい。

最後に、卒業生・修了生の皆様のご健康とますますのご活躍・ご発展をお祈りいたします。

## エコロジー工学系

本エコロジー工学系は環境と生態サイクルの関係を、共生と循環であると考え、環境を保全しながら人類の健全な発展を工学的に体系化をするため、世界で初めてエコロジー工学の名前で、平成5年度に本学に設置され今年で4年になりました。現在一年次10名，二年次15名，三年次59名，四年次49名が在籍し，4年生は各研究室に配属され一期生にふさわしい学生になるため一生懸命に勉学と研究に励んでおります。ようやくエコロジー工学系の建物が10月に完成される予定で，12月からは引っ越しも可能になり，卒論発表は新しい建物で行うことができるようになりました。

平成8年9月現在のエコロジー工学系の教職員は，以下のようになっています。

[生物基礎工学大講座]

教授：鈴木慈郎，菊池 洋  
助教授：S. S. SIDDIQUI，平石 明  
助手：安田八郎，松澤有希子，田中照通  
技 官：坂井悦子

[生物応用工学大講座]

教授：笠倉忠夫，水野 彰，藤江幸一

## 金 熙 濬

助教授：田中三郎，黄 霞  
助手：桂 進司，胡 洪堂  
教務職員：村松 東  
辻 秀人（技術開発センター助手・協力教官）

[生態環境工学大講座]

教授：大竹一友，北田敏廣  
助教授：木曾祥秋，金 熙濬，成瀬一郎  
講師：DEL CARPIO C. A.  
教務職員：倉田学児

[事務]

石黒真樹  
大原見枝子

今年一年間のエコロジー工学系の動向をお知らせいたします。今年度の本系の系長は大竹先生，系長補佐は鈴木先生です。大竹先生はISO（国際標準機構）の日本代表として選ばれ，新しい規約作りに多忙です。もし，ISOに関して関心がありましたら御連絡ください。だれより速い情報を手に入れることができると思っています。新任教官としては日本碍子・エンジニア事業本部から笠倉忠夫教授が，味の素・中央研究所から平

石明助教授が、中部ガスから村松東先生が、京都大学から倉田学児先生がそれぞれ赴任されました。また、本学の知識情報工学系から DEL CARPIO C. A. 講師を迎えました。事務の方はいままで頑張っていたいただいた城戸美智子さんが10月に出産のため辞職されました。長い間ごくろうさまでした。城戸さんの後任には大原見枝子さんが採用されました。

教官・学生共々新しい学科作りに一生懸命ですので、

## 人文・社会工学系

平成8年1月以降の系内の動きをお知らせしましょう。

まず野村先生が系長に就任されました。系長補佐には浜嶋先生が選ばれました。以上が人事関係ですが、先生方の海外研修活動をお知らせします。

御支援お願いいたします。また、エコロジー工学系を紹介するため、W.W.W.にHOME PAGEを開設しましたので機会がありましたらインターネットで一度覗いてみて下さい。(アドレスは <http://mizlab.eee.tut.ac.jp>)

最後に、同窓会の皆様の御健康と御発展をお祈りいたします。

## 平 松 登志樹

加藤先生がデンマークの手話研究所に出張されました。

9系の教職員一同、元気でがんばっています。

# 退官教官より

平成7年度

## 任を終えて



「退任に当って」を書けといわれたのは3月のはじめである。退任するとどんな心境になるのか判らない。予定稿をつくるのは気が進まないでいるうちにその日を迎え、いまは4月も下旬となった。人は嗤おうが大学のためにと働いてきて6年が過ぎ去ったいま、抜け殻に等しい身には大学はきわめて遠い存在になってしまっているのである。多分、心の支えを失ったからであろうか、諸事懶いのである。ついきのうのことなのかの時代は往時茫々としか思えず、何か書こうにも筆が動かないのである。だが天伯の編輯子に容赦はない。4月22日が待ったなしの締切りですよと迫る。已んぬる哉。以下に一文をつくる。

学長は大学の動く広告塔である。国立大学協会は98国立大学を以て組織され、すべての学長が年に2回あつまって総会を開く。各学長は常置委員会と臨時の特別委員会のいずれかに所属させられる。総会では当面する事項について報告やらそれを承けての論議やがある。多くの学長は沈黙。しゃべる人はほぼきまっている。その分、委員会は小人数となるから活潑である。私は総会も委員会も積極的に発言した。豊橋技術科学大学がどんな大学かを知る人は本当に少ない。入試の分離・分割にしてもこの制度は本学にはなじまないのだということを縷々述べるが、ここでやっと「そういう大学もあったのですか」といわれる。豊橋技術科学大学を眺たる小大学におわらせてはならない。そのためには広告塔であらねばならない。委員会は第三常置委員会の長として作業をした。学生の福利厚生を主務とするこの委員会はヒマでいいですよといわれて引き継いだのであるが、ヒマには過ぎなかった。日本

※この原稿は、大学の協力により「天伯」から転載したものです。

前 学 長  
佐々木 慎 一

人のみならず留学生の学生生活について全国調査をし、貧弱な福利厚生施設を充実させよとの要望書をつくった。留学生の居心地をよくし少なくとも嫌日で帰らせまいがためにはどうしたらよいかの提案も行った。就職問題では文部大臣と並んでテレビにも再三うつつた。協会の理事を経て常務理事にされたのは大学の規模からみて破格の待遇だったのかも知れない。

地域社会との交際も厭わなかった。大学は地域と密接な関係をもたねばならない。地域産業の活性化に力を藉さねばならない。大学は地域にむけてセミナー、講習会等の情報発信を多彩かつ活潑に行っているが、それを地域がどう受けとめ、どう評価してくれているかそれを知りたい、そして何よりも大学そのものをよく知ってもらいたい、こんな思いが地域の人たちとの交際に向かわせたのである。東三河開発懇話会の小坂英一氏が私に最終講演をやれといわれ、6年間の総括を地域の多くの方にお聴き頂く機会をつくって下さった。これは嬉しかった。広告塔は少しは機能したようである。

大学が大綱化・自由化されそれを承けて自己点検・評価が義務づけられたのは学長就任と殆ど時を同じくする。大学では直ちに自己点検・評価委員会を設けて活動に入った。シラバス・授業評価・研究状況の開示等は点検評価の結果である。誰がどんなことを教えるのか(シラバス)、学生はそれを聞いてどんな批評・感想をもったか(授業評価)、そして教える人たちの研究は(最新の研究情報)、これらが一体となって教育研究の改善向上に資せられようことは論を俟たない。点検評価という語はいま若干色褪せてきた感がしないでもない。だが息の長い点検評価こそこのさき必要である。そして点検評価を文章にし公表するだけではダメだ。点検評価によって大学がほんとうによくなったというこ

とが誰の目にもみえるようになってはじめて点検評価は実を結んだことになる。

学長はリーダーシップをと文部省はいう。オレについてこい式のリーダーシップは好みでもないし、その才能もない。心がけたことは常に先を読みそれを大学行政に反映させつつ大学に特色をもたせたいということである。幸い優れた僚友として副学長・局長に恵まれ、こんなことをしたい、こうあったらよいのだがと申せば直ちに具現のための行動を起こして下さる。有難い仲間たちであった。そんな意味からすると私はマネージャー的学長であったのかも知れない。

学長はすべての人をハッピーにはできない。アンハッピーネスを強いること少しとしない。そんなとき少しでも私心があったらつとまらない。依怙最眞などは以ての外である。ために意識して誰とも親しみ狎れるこ

とをしなかったし、誰を<sup>しりぞ</sup>斥けるということもしなかった。学長は孤独なものなりと<sup>き</sup>覚った。

大学の整備については課程の新設、博士課程の拡大再編、研究施設の設置、マルチメディアシステムの子算獲得等々教職員のご支援のもとに多くの仕事をさせて頂いた。詳細を綴ればキリがない。辛く苦しいこともあったがそれを越えて<sup>たの</sup>愉しい時を過ごさせて頂いたと感謝している。

退任後のいま、少しは残っているらしい余力をふりしぼってサイエンスクリエイト21計画に<sup>いさ</sup>聊かなりとお役に立てぬものかと、サイエンスコアに一室を拝借して仕事を始めた。毎日が日曜日<sup>はず</sup>の筈だったのにと家人の評判は<sup>すこぶ</sup>頗るわるい。

(平成8年4月22日未明)

## 技科大での思いで

前副学長

山下 富雄



2月の末日、まだ送別会には早いかと思われる時期に事務局の方々による学長・両副学長の送別会を談話室で開催していただいた。その時の挨拶で「本学に赴任してきた最初の挨拶で、「仕事

は出来るだけ楽しくやりましょう。」と言いましたが、今考えてみると皆様の苦労を顧みず私だけが楽しく仕事をさせていただいたような気がします。」と言いましたところ、後ろの方から「そうだ!」という大きな声が聞こえてきました。本当にその通りだと思います。こういうのを“自他共に認める”と言うのでしょうか。

顧みますと、平成4年4月に本学に赴任し、まず感じたのは、先取の気性に富んだ明るい大学であるということであった。創設以来日も浅く、自分たちが協力して創り上げた大学であるという意識、また、地元の方々も自分たちが誘致した大学であるという意識、この二つの意識が相俟って、教官の研究意欲の高さをもたらし、教官と事務官の協力関係を良くし、学生の勉学意欲を引き出しているのだらうと思われま

す。思い出せば、この4年間のあいだ、本学の教官、事務官の協力・援助を受けていろいろな事柄の推進に参画させていただくことができた。

今も記憶に残るものとして、赴任早々のエコロジー工学課程の設置では、学長との最終意思確認、文部省担当者の前での無言の陳情等が思い出されます。関係の先生方には随分ご迷惑をお掛けしましたが、ようやく専用の建物も建上がりかけ、もう少しのご辛抱かと安心しています。

留学生定員内化では、知識情報工学課程設置の経緯から学長が苦悩しておられるのを見兼ねて(?)の苦肉の策で、同課程の研究教育条件の向上に役立ったのではないかと考えています。

社会人定員内化では、文部省が、リフレッシュ教育の推進を一つの方策としたいとの意向があることを忖度して希望を表明したもので、理工系では本学が制度発足以来のトップを切ることができました。後に続く各系のためにもその数の確保が望まれます。

大学院博士後期課程の改組は、本学の新構想大学であるという特色を生かしての3専攻方式での運営を行って来ましたが、これを見直し、環境・生命関係の専攻を増設したいとの要望により、従来の3専攻を廃止し、新たに4専攻を新設するという方式を採りましたが、エコロジー工学課程の学年進捗との関係は?と聞かれた時には一体どう答えるべきであったのか今でも困惑しているところです。廃止・新設と言うことで、事務局の方々には大変ご迷惑をおかけしました。

国際棟の建築では、大学の近くにバイパスが通ると言うことで、土建関係者の種々の動きがあったのですが、その暗闘を逆手に利用して建設することができました。

ここ数年間、景気回復を願って、何回か補正予算が計上されていますが、これら補正予算では、固体機能デバイス研究施設、駐車場の整備、中庭の整備、それに今本学の最大の懸案となっていますマルチメディア・ユニバーシティ・パイロット事業があります。

本学は、最近、補正予算で太った大学と言う陰口もありますが、こういうことができるのも、日頃の学内の意思疎通が図られていることの証明で、緊急を要することに何時でも適切に対応できる柔軟性を示しているものと言う事ができます。

特に、マルチメディア・ユニバーシティ・パイロット事業については、全国に先駆けて認められた事項です。これを見事に果たし、“豊橋技術科学大学ここにありき”を示していただきたいと考えています。“豊橋技術科学大学”の益々のご発展を期待しております。

## 回顧断章

前副学長

楠 菊 信



任期満了により今年3月に本学を退職することになった。NTT電気通信研究所に26年、本学に16年（前半は情報工学系教授、後半は教育研究担当副学長）と、変化と緊張感に富む日々を過ごすことができた。この間の印象深い

思い出を若干述べてみたい。

### 1. 講 義

昭和55年に本学に着任し、早速講義をすることとなった。1つの講義を行うためには、その背景として10倍の横の広がり、と10倍の縦の深さが必要であると象徴的にいわれる。一方他の条件として学生側の吸収率の問題がある。「人を見て法を説け」の通り、内容の実質がいかに立派でも、相手が受け付けてくれなければ何にもならない。相手に応じたレベルの設定、話題の組み立て、理解を先送りさせないレビューのさせ方等々、相当工夫の必要なのがだんだん分ってきた。初期の学生には大変申し分けなかったと反省している。今後は学生の質のばらつきがさらに増す傾向にある。この中で学生側の吸収率を一定レベル以上に維持するために一層の工夫が必要になると思う。

### 2. 研 究

昨年のノーベル賞をみると、物理学賞は「軽粒子物理学の先駆的な貢献」で2人、化学賞は「オゾン層形成と破壊のメカニズムの研究」で3人が受賞した。科学技術の研究手法は従来、単眼で1点を深く掘り下げる形が中心であり、上記の物理学賞はこれに相当する。一方資源・エネルギーを膨大に消費する現代では、地球の受容能力が相対的に小さくなり、工学的諸事象を規定するパラメータが相互に関連し合うようになってきた。ノーベル賞ですらこのような複眼的研究を無視し得なくなり、上記の化学賞となった。

私の専門はコンピュータアーキテクチャと通信網の研究である。直接的な研究はこの6年間中断したが、この分野の発展はまことに目覚しく、研究情報の獲得に事欠くことはなかった。特にマイクロプロセッサとインターネットのような通信網技術が結合することにより、従来組織のハイラーキを揺さぶり、社会の仕組みを変えるまでに至っている。このようなインフラストラクチャを利用して、工学研究者が新技術・新産業の創出を先導し得る機会は益々増えることと思う。研究対象の急拡大が実感される所である。

### 3. アドミニストレーション

私が何らかの意味で関与した大形の概算要求等事項

として、知識情報工学系の設置（昭和63年）、エコロジエー工学系の設置（平成5年）、博士後期課程の4専攻化（平成7年）、マルチメディアユニバーシティパイロットプロジェクトの開始（平成7年）などがあり、開学20年の若い大学としては相当先導的であったと思う。この経過を子細にみると、次のような条件が共通的に浮かび上がってくる。

- (1) 天の時：そのテーマに関し、世の中で追い風が吹いているか又は、吹き始めている。
- (2) 地の利：学内の日頃の活動により、受皿としての実力が自他ともに認め得るレベルに達している。
- (3) 人の和：教職員1体の信頼関係により、緊急の意志決定が可能なる態勢にある。

(3) に関しては、本学のようにまとまりのよい大学にして辛うじて出来る所である。現在日本の公的システムに種々のほころびが出てきている。これは意志決定機構が曖昧で、権限、義務、責任の関係が不明確となっているからである。日本の大学システムも同根にあり、国際的競争を考えると近代化への見直しは避けて通れない所と思うが、どうであろうか。

### 4. 産学共同

産学共同を長続きさせるためには何らかの意味で「give & take」が成り立たなければならない。大学の研究者はある問題事象が発生したときに、それを解析して一般化するのが努めであり、知的なノウハウを整理し論文化して世に問うのが生き甲斐である。一方、企業は解明された原理に基づいて製品化し、世の利便に供するとともに利潤を得ていかなければならない。このように学と産は車の両輪であり、それぞれの持ち味を充分発揮して初めて相乗効果が出てくる。一方2.項で述べたように、研究対象が急拡大しており、新しい研究ペアの可能性にも常に注意していく必要がある。このために「最新の研究情報」が毎年発刊されているが、その有効性を常にチェックし改善していく必要があると思う。

4月からは新設の豊橋創造大学（経営情報学部）に勤めることになった。これは日本再生を旗じるしに新産業の創造を指向する大学と聞いている。一方本学は実践的且アカデミックな科学技術の創造を基本理念としており、相互に有無相通ずるものがあると思う。16年間のご厚誼に感謝するとともに、今後のご指導、ご協力方宜しくお願い申し上げます。



## \*研究室だより\*

## '96 大学周辺事情と研究室紹介

生産システム工学系 (1991年修了) 増山圭一

本機械材料研究室は、生産システム工学系の材料工学大講座に所属し、旧の機械材料森永研の後を受けて(森永先生は名大に転任)平成7年4月より新しくスタートした研究室であります。本研究室は、スタッフとして、教授の梅本先生と助手のK. Raviprasad先生と私助手の増山であり、外国人留学生、研究生の5名(中国人3名、メキシコ人2名)と修士10名、学部4名の総計22名により構成されています。本研究室の研究テーマは以下のようです。

- (1) 鉄鋼材料における強度を熱力学を使って予測する方法の開発
- (2) 鋼の焼戻しによる機械的性質の変化に関する研究
- (3) 鋼の超急速加熱中における析出物の溶解過程に関する研究
- (4) メカニカルアロイング法による交換スプリング磁石に関する研究
- (5) メカニカルアロイング法による熱電材料の高性能化に関する研究
- (6) メカニカルアロイング法によるフラーレンを含んだ合金の創製
- (7) プラズマアークジェット法による金属-セラミックス複合超微粒子の作製とその生成機構の解明
- (8) プラズマ焼結法による準安定バルク材の作製に関する研究
- (9) アルミニウムの表面厚硬化法の開発

さて話を少しそらして大学周辺の様子について説明いたします。私が学生だった頃といっても6年前のことですが、諸兄のみなさんご存じのように大学の周りはコンビニ等というものは全く無く、ただ軒の酒屋が大学の正門のそばにあるだけでした。小松原街道沿いも閑散として、夜ともなるとパチンコ店の煌々たるネオンサインとそれと対照的に雲雀ヶ丘に浮き上が

るかごとくの大学の棟の明かりが目立っているだけでありました。学内に目を向けると、野球場では野生の犬が鶏をくわえているわ、カラスが鶏の卵をグラウンドで食べているわで「野生の王国」状態でしたが、現在は、大学の近くに24時間営業のコンビニができるわ、焼き肉屋をはじめ、銭湯はできるわ、でそりゃもう大変な変わり様です。学内においても、D棟の横(グラウンド側)に知識情報工学棟が建設され、またエコロジー工学棟も本年完成いたしました。さらに、図書館の前に時計台が設置されました。こんなところが、現在の大学周辺および学内の様子であります。

最後になりますが、大学は日々変わっていきませんが、私を含めて学生時代の楽しかった(苦しかった?)思い出だけは変わらないものと思います。OBの皆様、豊橋にお立ち寄りの際は是非大学に、本研究室に遊びにきてください。案外自分の書いたメモや落書き等が自分の使っていた実験装置の周りに今まで残っているかもしれませんよ！。



機械材料梅本研究室 (96年7月 蒲郡にて)

## 梅村研より「はじめまして」?

情報工学系 ソフトウェアシステム研究室一同

卒業生、修了生のみならず、はじめまして。私たちは情報工学系計算機大講座の梅村研究室です。なぜ「はじめまして」といいますと、実はうちの研究室は発足して今年でまだ2年目なのです。ですから今度の4月で初めて研究室第1期生が社会に出ていくことになります。というわけで、今回はこの場をお借りしまして、近況報告というよりは研究室紹介として「こんなこと研究している連中が後輩におりますので、これからどうかよろしくお願ひいたします」というメッセージを発信させていただきたいと思ひます。

さてまずは我々のボスこと梅村恭司先生について。先生はNTTから本学にトラバユしてこられまして、LispとC++とLinuxとIBM-PCと秋葉原をこよなく愛する、ハードとソフトの両面でコンピュータいじりの大好きな方です。

学生はといひますと、発足当初は学部4年と修士1年あわせて4人の小じんまりとした研究室だったのですが、今年度は新規配属の学部4年が5人に加えて、今度京大に移られた湯浅先生のところにいた修士1年2人と修士2年が4人再配属されてきましたので、いきなりの大所帯となって実ににぎやかになりました。

主な研究分野としては、1) 情報発信・検索のための

道具として最近はやりのWWWを使う研究と、2) パワフルな計算機を使つての大規模なテキスト処理（解析、検索等）が大きな2本の柱です。現在進められているテーマは次のとおりです（少々毛色の違うものもありますが……）。

『WWWでのリファレンスシステムの実現と評価』

『人名のアルファベットと仮名の対応規則の自動生成』

『新聞記事からの人物の関係の自動抽出』

『連続量に対応するネットワークでのアンケートシステム』

『フォント情報を利用した曖昧検索手法の研究』

『多国籍情報のWWWでの表示システムの構築』

『ネットワークサーバにおける実行コンテキストの取得方法の検討』

『負荷集中に耐えるネットワークサーバの構築』

『自然言語処理手法を応用したソフトウェアツール作成』

『並列言語のベクトル化コンパイラ』

豊橋においでの際は、是非お立ち寄り下さい。お茶と端末でおもてなしいたします。



## 有朋自遠方来不亦樂乎？

建設工学系M1 堤 大 輔

修了生・卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様には毎年毎年、盆・暮れ時に色々なものを送っていただき、誠にありがとうございます。この場をおかりしてお礼申し上げます。

我々、建築環境研の現在の教官構成は本間先生を筆頭に、松本先生、教務職員の山本先生の3人です。学生構成は修士2年4人、1年7人、学部4年5人となっております。松本先生が昨年12月から今年の10月までカナダのオタワにある研究所を研究員として勤務されていたため松本研では学部4年はいませんが、総勢19人という大所帯となっております。年間の活動状況はまず4月に新歓コンパ、5月にソフトボール大会（なぜかわからないが、昨年・今年と準優勝）、11月の河原でのバーベキュー大会、12月の卒論発表の打上げ、忘年会、3月に修了生・卒業生の追いコンが恒例の行事となっている。これらの行事やゼミ、研究、実験などを通じて、交流が広がりわきあいあいとした雰囲気となっています。このような活動だけ見ていると他の研究室とあまり変わらないと思われるが、我々の研究室には他と異なる大きな特徴がある。

我々の研究室には、修士2年1人、1年2人、学部4年1人の計4人も中国からの留学生が在籍している。彼らの話によると、近年中国の経済発展は非常に進んでおり、今年の経済成長率も10%に達しているそうです。その中でも建設業はとくに繁栄しているそうです。裕福になればなるほど、人間はより良い住環境を

求めるような状況は中国でも例外ではないそうです。中国では、建築環境の将来性が見えてきたために、彼らは日本の進んだ技術、様々な知識、貴重な経験を身につけたいと、口をそろえて言っています。そして学業、生活など全ての面で一生懸命頑張っています。

彼らに最も驚かされることは、日本語が異常な程上手なこと。皆さん初めて日本に来た時は、全く日本語については知識がなかったらしく、郷に入れば郷に従えと、とにかく一生懸命勉強したそうです。その結果、今では僕たちが逆に分らない言葉の意味を教えてもらったり、日本語で説教されることもあります。彼らの語学力、明るい性格のおかげで日中交流がとて盛んに行われています。彼らがいるからこそ、研究室がいつも明るく保たれているといっても過言ではありません。有朋自遠方来不亦樂乎？（遙か遠いところから友がやってくることは、とても嬉しいことではないか）。

最後になって恐縮ですが、我々が行っている研究内容やメンバー紹介などの情報を見ることが出来る「ホームページ」が開設されました。アドレスは本間研究室が<http://mmd5.tutrp.tut.ac.jp/homma/>で、松本研究室が<http://mmd5.tutrp.tut.ac.jp/matumoto/>です。もし、インターネットを利用できる環境があるならば、是非とも研究室を訪問して下さい。そしてOBの方々、豊橋へ来られた時には是非お寄り下さい。建築環境研へ！



## 大竹研究室の近況

現在の大竹研究室の構成は、D3が2名、M2が4名、M1が4名、B4が5名の総勢15名です。大竹研究室といえば、やはりTUTプロレス抜きには語れないでしょう。TUTプロレスも本年度で12周年を迎え、益々活況を呈しています。我々にとっては、卒論、修論発表をも凌ぐ秋の大イベントで、本年度も12名のレスラーを送り込んでいます。リングも徐々に硬くなってきており、少しずつですが改良が進められています。ただ、コーナーポストは相変わらずビールケースです。試合内容は、時事ネタ、コスプレの色物系からストロングスタイルの本格プロレスまで何でもありますが、リングが硬くなってきたせいも、最近の傾向としては色物系が多くなっているようです。例年、多くの観客を集め、まさに技科大祭イコールTUTプロレスと言われるまでになった（と私たちは思っている）のも、OBの方々の努力と体力と（人前で尻を出す）勇気の賜であり、この伝統を絶やすことなく続けていこうと思っています。現在、TUTプロレスのWWWサイトを構築すべく計画中で、OBの皆さんにもご協力をお願いすることになるかと思いますが、その折りはよろしく願います。

さて、プロレスのことばかり書くと研究をしていないような印象を与えてしまいそうですが、研究の方も

### エコロジー工学系 村上高広

大竹研らしくきっちり行っています。本年度は、成瀬先生がアリゾナ大学へ留学されており、大竹先生もISO14000シリーズの委員として海外出張されることが多いため、頻繁に打ち合わせをすることはできませんが、それでも月1回のペースで中間報告会はきっちり行われています。OBの方々から「大竹先生は丸くなってきた」とよく聞かされるのですが、私たちからすれば「まだまだ元気」と言った感じでしょうか。本年度からエコロジー工学系の学生が入り、これまでの機械系の学生に加え、情報系や土木系の学生など顔ぶれが多彩になって来ました。同時に研究室の雰囲気も変わりつつありますが、これまでの伝統を踏まえ、新しい大竹研を創っていききたいと思います。

最後に、現在行われている主な研究は以下のとおりです。

- ・ ディーゼルエンジンのすすとNO<sub>x</sub>の同時低減
- ・ 高温・高酸素石炭燃焼場における灰の付着挙動
- ・ レーザーによる火炎内の化学種分析
- ・ 石炭からのアルカリ金属の放出特性
- ・ 廃棄プラスチックのサーマルリサイクリング
- ・ RDFのクリーン燃焼技術

OBの皆さん、いつでも大竹研究室へおこし下さい。



第45回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

番号	種目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考
1	陸上競技	男	静大 10	名大 8	岐大 6	三重大 5	愛教大 4	豊技大 3	名工大 2	浜医大 1	
		女	静大 6	愛教大 5	三重大 4	岐大 3	名大 2	浜医大 1			
2	水泳	男	名大 10	三重大 8	岐大 6	(静大・愛教大 4.5)		名工大 3	浜医大 2	豊技大 1	
		女	愛教大 8	静大 6	岐大 5	名大 4	浜医大 3	名工大 2	三重大 1		
3	硬式野球		愛教大 8	名工大 6	(三重大・岐大 4.5)		(静大・豊技大・名大 2)				
4	準硬式野球		浜医大 10	名大 8	(静大・名工大 5.5)		(愛教大・豊技大・三重大・岐大 2.5)				
5	テニス	男	(静大・愛教大・豊技大・三重大・浜医大・名大・岐大・名工大)								オープン
		女	(静大・愛教大・豊技大・三重大・浜医大・名大・岐大・名工大)								オープン
6	ソフトテニス	男	三重大 10	静大 8	浜医大 6	岐大 5	名大 4	名工大 3	愛教大 2	豊技大 1	
		女	岐大 5	三重大 4	名大 3	静大 2	愛教大 1				
7	バスケットボール	男	名大 10	静大 8	三重大 6	岐大 5	名工大 4	愛教大 3	浜医大 2	豊技大 1	
		女	静大 6	愛教大 5	名大 4	三重大 3	岐大 2	浜医大 1			
8	バレーボール	男	名大 10	岐大 8	愛教大 6	静大 5	三重大 4	豊技大 3	名工大 2	浜医大 1	
		女	愛教大 5	三重大 4	岐大 3	静大 2	名大 1				
9	卓球	男	名工大 8	名大 6	愛教大 5	三重大 4	静大 3	岐大 2	豊技大 1		
		女	静大 5	愛教大 4	名大 3	三重大 2	岐大 1				
10	バドミントン	男	静大 10	岐大 8	三重大 6	名大 5	名工大 4	豊技大 3	愛教大 2	浜医大 1	
		女	名大 10	浜医大 8	静大 6	名工大 5	三重大 4	岐大 3	愛教大 2	豊技大 1	
11	サッカー		名工大 10	静大 8	愛教大 6	岐大 5	浜医大 4	名大 3	三重大 2	豊技大 1	
12	ハンドボール	男	愛教大 8	名工大 6	名大 5	岐大 4	静大 3	浜医大 2	豊技大 1		出場辞退三重大
		女	(静大・愛教大・岐大)								オープン
13	柔道		静大 10	名大 8	(愛教大・豊技大・三重大・浜医大・岐大・名工大 3.5)						
14	剣道	男	静大 10	名大 8	岐大 6	三重大 5	(愛教大・豊技大・浜医大・名工大 2.5)				
		女	岐大 6	愛教大 5	静大 4	名大 3	(三重大・浜医大 1.5)				
15	体操	男	静大 6	名大 5	愛教大 4	名工大 3	岐大 2	三重大 1			
		女	愛教大 4	静大 3	岐大 2	名大 1					
16	馬術		名工大 6	岐大 5	(静大・愛教大・三重大・名大 2.5)						
17	空手道	男	名大 8	浜医大 6	名工大 5	愛教大 4	岐大 4	三重大 2	静大 1		出場辞退豊技大
		女	岐大 4	浜医大 3	三重大 2	名大 1					出場辞退愛教大
18	弓道	男	静大 8	三重大 6	(岐大・名工大 4.5)		(愛教大・浜医大・名大 2)				
		女	愛教大 8	岐大 6	名大 5	名工大 4	浜医大 3	三重大 2	静大 1		
19	アーチェリー	男	(静大・岐大・三重大・愛教大)								オープン
		女	(岐大・愛教大・静大)								オープン
20	少林寺拳法		名大 8	三重大 6	愛教大 5	静大 4	岐大 3	名工大 2	豊技大 1		
総合順位		男	名大 112.5	静大 108.5	岐大 83	名工大 80	三重大 78	愛教大 74.5	浜医大 43	豊技大 26.5	
		女	愛教大 47	静大 41	岐大 40	名大 37	三重大 27.5	浜医大 20.5	名工大 11	豊技大 1	

(備考) 表中の大学名の右数字は総合得点を示す。

## 平成7年度修了・卒業者就職先一覧

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
一 般 企 業					
1	㈱ アイアイシー		1		1
2	アイシン・エイ・ダブリュ(株)		2		2
3	アイシン・エイ・ダブリュ精密(株)		1		1
4	アイセロ化学(株)	1	2		3
5	㈱ A i H O		3		3
6	愛 陸 運 輸 (株)		1		1
7	旭 化 成 工 業 (株)		1		1
8	旭化成情報システム(株)		1		1
9	旭化成ホームズ(株)		1		1
10	旭 テ ッ ク (株)		1		1
11	アストロデザイン(株)		1		1
12	ア ス モ (株)		1		1
13	㈱ 穴 吹 工 務 店		1		1
14	ア ネ ル バ (株)		1		1
15	㈱ アミタマシーズ		2		2
16	㈱ 新 井 組		1		1
17	㈱アルファシステムズ		1		1
18	ア レ ク セ ル	1			1
19	安 藤 建 設 (株)		1		1
20	安 藤 電 気 (株)		1		1
21	石川島播磨重工業(株)		1		1
22	㈱ イズミテック	1			1
23	㈱ 一 条 工 務 店		1		1
24	㈱伊藤建築設計事務所		1		1
25	伊藤忠テクノサイエンス(株)		1		1
26	㈱ イ ナ テ ッ ク		1		1
27	イ ノ テ ッ ク (株)		1		1
28	イ ビ デ ン (株)		1		1
29	伊吹正化学工業(株)		1		1
30	岩下エンジニアリング(株)	1			1
31	ウ シ オ 電 機 (株)		1		1
32	㈱ A B S ク ラ フ ト	1			1
33	エクセレント・デザイン(株)		1		1
34	エヌエスエンジニアリング(株)		1		1
35	エヌエスケー・ワーナー(株)		1		1
36	NTTソフトウェア(株)		1		1
37	NTT東海移動通信網(株)		1		1
38	㈱NTTファシリティーズ		1		1
39	MAPインドネシア(株)		1		1
40	㈱ 大 阪 防 水 建 設 社	1			1
41	㈱ 大 林 組		1		1
42	大 林 道 路 (株)		1		1
43	岡 本 (株)		1		1
44	沖 電 気 工 業 (株)		1		1
45	オ ー ク マ (株)		2		2
46	長 田 電 機 工 業 (株)		1		1
47	㈱ オ ー ハ マ	1			1
48	オ ム ロ ン (株)		1		1
49	㈱オリエンタルコンサルタント		1		1
50	ガステックサービス(株)		1		1
51	釜 屋 電 気 (株)	1			1
52	川研ファインケミカル(株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
53	関 西 電 力 (株)		1		1
54	㈱ 技 研 製 作 所		1		1
55	㈱ 技 研 測 量		1		1
56	㈱岐阜早セラック製造所		1		1
57	キャタラー工業(株)		2		2
58	キ ャ ノ ン (株)		1		1
59	㈱ 共 栄 社		2		2
60	共 和 工 業 (株)		1		1
61	㈱ 金 陵		1		1
62	㈱ 熊 谷 組		1		1
63	㈱ ク ラ ベ		1		1
64	ク ラ リ オ ン (株)		1		1
65	栗 原 工 業 (株)		1		1
66	㈱ケイ・アイ研究所		1		1
67	㈱ ケ ン ウ ッ ド	1			1
68	原子燃料工業(株)		1		1
69	㈱構造計画研究所		1		1
70	㈱ 鴻 池 組		1		1
71	㈱神戸工業試験場		1		1
72	光 洋 産 業 (株)		1		1
73	光 洋 精 工 (株)		1		1
74	国 際 電 気 (株)		1		1
75	小松フォークリフト(株)	1	1		2
76	榮 製 機 (株)		2		2
77	㈱ 佐 賀 鉄 工 所	1			1
78	サ ッ ポ ロ 産 機 (株)		1		1
79	㈱ 佐 藤 鉄 工 所		1		1
80	三栄ハイテックス(株)		1		1
81	サ ン ク ス (株)		1		1
82	サ ン ケ ン 電 気 (株)		1		1
83	㈱ 三 五		2		2
84	㈱ C S K		4		4
85	四 国 計 測 工 業 (株)	1			1
86	四 国 電 力 (株)		1		1
87	㈱システムクリエイト		1		1
88	㈱CTIサイエンスシステム		1		1
89	四電エンジニアリング(株)		1		1
90	清 水 建 設 (株)		1		1
91	㈱ジェックシステムリサーチ	1			1
92	シ ャ ー プ (株)		1		1
93	ジャパンレイクアンドキャナル(株)	1			1
94	住 宅 金 融 公 庫		1		1
95	シ ロ キ 工 業 (株)		3		3
96	信 越 化 学 工 業 (株)		3		3
97	新 日 本 理 化 (株)		1		1
98	ス ズ キ (株)		1		1
99	㈱鈴木楽器製作所	1			1
100	㈱ ス タ ナ ム		1		1
101	住友金属工業(株)		1		1
102	住友金属テクノロジー(株)		1		1
103	住友電気工業(株)			1	1
104	セイコーエプソン(株)		1		1
105	積 水 ハ ウ ス (株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
106	㈱ ゼ ク セ ル		1		1
107	セントラルコンサルタント(株)		1		1
108	綜 研 化 学 (株)		1		1
109	相 生 精 機 (株)	1	1		2
110	ソ ニ ー (株)		2		2
111	PT. SONY ELECTRONICS INDONESIA	1			1
112	㈱ ソ ビ ア	1			1
113	㈱太平洋エンジニアリング		1		1
114	㈱ 高 岳 製 作 所		1	1	2
115	㈱ 竹 中 工 務 店		1		1
116	第一生命情報サービス(株)	1			1
117	大 王 製 紙 (株)	1			1
118	ダイコク電機(株)		1		1
119	㈱第一コンピュータリソース	1			1
120	㈱第一システムエンジニアリング		1		1
121	㈱ダイショーブレイン		1		1
122	大 同 特 殊 銅 (株)		2		2
123	大同メタル工業(株)		1		1
124	大 日 精 化 工 業 (株)		1		1
125	大 日 本 印 刷 (株)		1		1
126	㈱ ダ イ ヘ ン		1		1
127	大和ハウス工業(株)	2	2		4
128	千代田化工建設(株)		1		1
129	中越パルプ工業(株)	1			1
130	中央コンサルタンツ(株)		1		1
131	㈱ 中 部	1			1
132	中 部 ガ ス (株)		1		1
133	中部住宅販売(株)		1		1
134	中部テレコミュニケーション(株)		1		1
135	中 部 電 力 (株)	1	1		2
136	㈱中部プラントサービス	1			1
137	㈱ソーカーセラー-東海	1			1
138	筒中プラスチック工業(株)		1		1
139	㈱ 鶴 弥		1		1
140	テ イ サ ン (株)	1			1
141	㈱ T Y K		1		1
142	㈱ディ・エス・エレクトロニクス	1			1
143	㈱ テ ク ノ 中 部		1		1
144	㈱ テ ッ ク		1		1
145	ト ー エ ネ ッ ク (株)		1		1
146	東 海 カ ー ボ ン (株)		1		1
147	東 海 聖 書 神 学 塾		1		1
148	㈱東海理化電機製作所		2		2
149	東京エレクトロン九州(株)		1		1
150	東京タンクステン(株)		1		1
151	東 京 電 力 (株)		2		2
152	東 急 建 設 (株)		1		1
153	東 芝 ケ ミ カ ル (株)		1		1
154	東 陶 機 器 (株)		1		1
155	㈱東北開発コンサルタント		1		1
156	東北日本電気ソフトウェア(株)	1			1
157	東 洋 通 信 機 (株)		2		2
158	東 洋 熱 工 業 (株)		1		1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
159	東レ(株)		1		1
160	(株)トキメック		2		2
161	(株)トクヤマ		1		1
162	トステム(株)		2		2
163	戸田建設(株)		1		1
164	鳥取三洋電気(株)		1		1
165	凸版印刷(株)		3		3
166	(株)巴コーポレーション		1		1
167	(株)トーマー		1		1
168	(株)トヨタシステムリサーチ		1		1
169	(株)トヨタ車体研究所		1		1
170	(株)トヨタマックス		1		1
171	(株)トヨタテック		1		1
172	豊橋工機 西島鉄工所		1		1
173	中日本建設コンサルタント(株)	1			1
174	(株)中山総合コンサルタント	1			1
175	(学)名古屋大原学園	1			1
176	西原ネオ工業(株)	1			1
177	西松建設(株)	1			1
178	日電精密工業(株)	1			1
179	(株)ニチリン	1			1
180	日産建設(株)	1			1
181	日通工(株)	1			1
182	日東電工(株)	2			2
183	日本アビオニクス(株)	1			1
184	日本移動通信(株)	1			1
185	(株)日本オートメーション	1			1
186	日本技術開発(株)	1			1
187	日本軽金属(株)	1			1
188	日本鋼管(株)	1			1
189	日本国土開発(株)	1			1
190	日本精工(株)	1			1
191	日本信号(株)	1			1
192	日本上下水道設計(株)	1			1
193	日本テキサス・インスツルメンツ(株)	1			1
194	日本テレコム(株)	2			2
195	日本電気(株)	3	1		4
196	日本電産(株)	1			1
197	日本電算機(株)	1			1
198	日本電信電話(株)	8			8
199	日本電装(株)	2	1		3
200	日本電装クリエイイト(株)	1			1
201	日本特殊陶業(株)	2			2
202	日本ヒューレット・パカード(株)	1			1
203	日本無線(株)	1			1
204	日本メカケミカル(株)	1			1
205	日本メクトロン(株)	1			1
206	日本モトローラ(株)	1			1
207	(株)ニューメディア総研	1			1
208	(株)野田塾	1			1
209	(株)ハドシス	1			1
210	阪神エレクトリック(株)	1			1
211	阪中郁男一級建築設計事務所	1			1

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
212	バンドー化学(株)		1		1
213	日置電機(株)		1		1
214	(株)日立エンジニアリングサービス		1		1
215	日立化成工業(株)		1		1
216	日立金属(株)		1		1
217	(株)日立製作所		4		4
218	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	1	1		2
219	日立中部ソフトウェア(株)	1	1		2
220	日立電線(株)		1		1
221	(株)日立ビルシステムサービス		1		1
222	日比谷総合設備(株)	1			1
223	(株)ヒミカ	1			1
224	(株)ピーシーシー	1			1
225	(株)フォセコ・ジャパン・リミテッド		1		1
226	(株)福永樹脂工業	1			1
227	(株)フジイカ	1			1
228	富士機械製造(株)		1		1
229	富士機工(株)		1		1
230	富士精工(株)		3		3
231	富士システム機器(株)		1		1
232	富士ゼロックス(株)		2		2
233	富士ソフトウェア(株)	1			1
234	富士通(株)		1		1
235	(株)富士通愛知エンジニアリング		1		1
236	(株)富士通コンピュータテクノロジ		1		1
237	富士電機(株)		1		1
238	富士電気化学(株)		2		2
239	(株)富士プレス		1		1
240	藤吉工業(株)	1			1
241	(株)フジユニバンス		1		1
242	古河電気工業(株)		1		1
243	ブラザー工業(株)		2		2
244	(株)ホーク	1			1
245	ホシザキ北関東(株)		1		1
246	本多電子(株)		1		1
247	(株)前川製作所		2		2
248	(株)牧野フライス製作所		1		1
249	松下寿電子工業(株)	1	3		4
250	松下精工(株)		1		1
251	松下通信工業(株)		1		1
252	松下電器産業(株)		5		5
253	松下電工(株)		2		2
254	丸文(株)	1			1
255	(株)岬建築事務所	1			1
256	三井石油化学工業(株)		1		1
257	三井木材工業(株)		1		1
258	(株)三ツ葉電気製作所		1		1
259	三菱重工業(株)		3		3
260	三菱電機(株)			1	1
261	美濃窯業(株)		1		1
262	ミノルタ(株)		2		2
263	ミネベア(株)		2		2
264	武蔵精密工業(株)		2		2

No	就職内定先	学部	修士	博士	計
265	(株)村田製作所		1		1
266	(株)メイテック	1			1
267	(株)明電舎		1		1
268	メディアドライブ(株)		1		1
269	矢崎総業(株)		2		2
270	(株)安川電機		1		1
271	山武ハネウエル(株)		1		1
272	ヤマハ(株)		1		1
273	雪印乳業(株)		1		1
274	(株)ユニフレックス		1		1
275	横河アナリティカルシステムズ(株)		2		2
276	横河シスコ(株)	1			1
277	横河電機(株)		1		1
278	(株)リコー		2		2
279	ロックペイント(株)		1		1
280	(株)ワコム		1		1
小計		53	298	5	356
国 の 機 関					
1	京 都 大 学			1	1
2	東 京 大 学			3	3
3	徳 島 大 学			1	1
4	豊橋技術科学大学			2	2
5	防衛庁航空自衛隊	1	2		3
小計		1	2	7	10
そ の 他 の 公 共 機 関 等					
1	愛知県警察		1		1
2	愛知県職員		1		1
3	島根県警察		1		1
4	豊橋市役所		1		1
5	八王子市役所	1			1
6	日本学術振興会			1	1
7	日本道路公団		1		1
8	日本放送協会(NHK)		1		1
9	(財)フインセラムックスセンター			1	1
小計		1	6	2	9
合 計		55	306	14	375

(平成8年2月29日現在)

## 「最新の研究情報」の発行

本学教官の最新の研究動向を社会に広く迅速に公開するため平成4年から毎年「最新の研究情報」誌を発行していますが、このたび平成8年5月現在の最新号を発行しました。

これは、主として共同研究、技術相談など産学交流に役立てていただくため、昭和61年度から発行してきた「教官研究課題一覧」を見直し、充実を図ったものです。

内容は、1人1ページ、各研究テーマごとに「研究概要」を非専門の中間管理職の方にも分かり易いように紹介し、「関連文献」を挙げ、更に「キーワード」を設ける等、他大学にはない新しい試みで編集してあります。

また、目的の情報に効率よくアクセスできるよう目次欄で詳細な研究分野を網羅しました。

各教官自身で作成した原稿をそのままダイレクト印刷して、2,000部を発行しました。まだ余部がありますので、御希望の方は角2型(33cm×24cm)封筒に返信先を記入、返信料340円切手を貼付し、次の申込先にお送りください。

なお、本年度版がなくなった場合は、少々お待ちいただき来年度版をお送りしますので御承知ください。

「最新の研究情報」(平成8年5月現在)

申込先:

〒441 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学教務部

研究協力主幹付研究事業係

Tel. 0532-44-6573(ダイヤル)

## 求む 投稿・表紙!!

### ■ 表紙

写真、絵、グラフィックデザイン等何でもOK!

・サイズ: B5版程度に縮小、拡大可能なもの。

※ CM的な要素のものを除く。

採用の場合は薄謝を送付致します。

### ■ 投稿

23字/行 横書き 敵守

その他: 内容・長さ等は問いません。写真も添えていただければ幸いです。

随時、受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学内

同窓会事務局

同窓会誌 編集係

### ■ 会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが、執筆するとなると、それなりの内容とある程度の長さが必要であるということ、ついついかしこまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように、「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思います。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など、内容、長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし、もちろん葉書、封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので、どしどしお寄せください。投稿の際には、お名前、卒業あるいは修了年度、学科名をお忘れなく!

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。



## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### ご 挨拶

同窓会会長（2系5期） 近 藤 秀 範

同窓生の皆様には、お元氣でご活躍の事と思いません。

さて、早いもので、豊橋技術科学大学は開学20周年を迎えました。そこで、過日、開学20周年記念式典が厳かに挙行され、続いて記念祝賀パーティが、催されました。同窓会を代表して、私も出席させていただきました。その時、同窓会が中心になって寄贈した時計台の除幕式も執り行われました。ステンレス製で前面に今回制定された学章があしらわれ、非常にシンプルなデザインの時計台です。大学の図書館の前に建てていますので、大学にお立ち寄り際には、ぜひ、ご覧になって行ってください。そして、この時計台を寄贈するにあたり、多くの同窓生の方々にご寄付を賜わり、ありがとうございました。誌面上ではありますが、深く御礼申し上げます。

同窓会からのお願いです。同窓会も設立から、ようやく14年経とうとしています。古参の技科大OBでも

やっと社会の中堅として働いている年代となっているくらいです。ですから、同窓会活動に時間を割けるOBは、少ないのが現状です。その中で、なんとか時間をやりくりして、役員の方には頑張ってもらっています。しかし、力不足であるのは否めません。私の夢として、同窓会が、技科大の大きなバックアップ組織として無くてはならない存在にしたいと考えています。でも現実には、現状の仕事をこなすのが手一杯で、他のことを考えている余裕がありません。そこで、同窓生の皆さんの中でぜひ同窓会を盛り上げてみようという方を募集しています。同窓会の役員をやっているメリットも大きなものがあります。豊橋技術科学大学のOBが誇りを持って活躍できるようバックアップするための同窓会活動を続けてまいりたいと思いますので、皆様のご理解とご協力をぜひよろしくお願い申し上げます。

平成8年11月27日

### 同窓会事業報告（平成7年度から平成8年度）

#### 1. 会報の発行

平成7年度の会報（13号）については、予定から二カ月ほど遅れて平外8年2月に発送した。平成8年度の会報（本号）については、今年度中に発行する予定である。

#### 2. 会員名簿の第3号の発行

会員名簿第3号は、本学の開学20周年記念にあわせ、平成8年10月に発行した。次回会員名簿第4号の発行は平成12年の予定である。

### 3. 卒業記念パーティの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうことを目的に、在学生で構成される学友会との共催で卒業記念パーティをこれまで毎年開催してきた。平成7年度は実施済み、8年度も引き続き実施する予定である。

### 4. 技科大祭への後援

在学生へ同窓会の存在をアピールすることを目的に、平成6年度から技科大祭へ資金援助を行うこととなった。平成8年度も技科大祭へ昨年と同様の資金援助を行った。

### 5. 本学の開学20周年記念事業への後援

今年度本学は開学20周年を迎え、これを記念して大学に屋外時計塔を寄贈した。時計塔の建立費は約260万円かかり、その費用を賄うため今年度2月から本会員に寄付を募ったところ、10月までに200万円を超える寄付が集った。

### 6. 第6回総会の開催

平成8年10月12日に本学において第6回豊橋技術科学大学同窓会総会を開催した。平成4～7年度事業報告ならびに決算報告、平成8～11年度事業計画が審議され、これらが承認された。

### 平成8年度同窓会役員の構成

名誉顧問	後藤 圭司 学長
会 長	近藤 秀範 (2系5期)
副 会 長	橋爪 進 (2系7期)
事 務 局	橋爪 進 (2系7期)
監 事	高島 英幸 (6系6期)
	山本 一伸 (6系13期)
会計担当	村本 裕二 (3系11期)
	見目 喜重 (3系11期)
編集担当	水嶋 生智 (5系5期)
	川口 正剛 (5系6期)
	佐藤 裕久 (5系7期)
	大北 博宣 (5系13期)
1系担当	柳田 秀記 (1系1期)
	咸本 広文 (1系11期)
2系担当	近藤 秀範 (2系5期)
	橋爪 進 (2系7期)
3系担当	村本 裕二 (3系11期)
	見目 喜重 (3系11期)
4系担当	奥山 徹 (5系1期)

中内 茂樹 (4系9期)

貴島 寿郎 (4系10期)

5系担当 水嶋 生智 (5系5期)

川口 正剛 (5系6期)

佐藤 裕久 (5系7期)

大北 博宣 (5系13期)

6系担当 高島 英幸 (6系6期)

山本 一伸 (6系13期)

7系担当 神山 斉己 (4系7期)

渋澤 博幸 (7系1期)

### 会費納入のお願い

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生、修了生で、入会費または終身会費が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さるようお願いいたします。

#### 会費

入会金 5,000円

終身会費 10,000円

#### 振込先

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305

加入者名 豊橋技科大エネルギー  
工学同窓会

2系：郵便振込

口座番号 00890-1-124555

加入者名 豊友会

3系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127

口座名 豊橋技術科学大学同窓会

4系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127

口座名 豊橋技術科学大学同窓会

5系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362

口座名 物質工学系同窓会  
(代表 水嶋生智)

6系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330

加入者名 建設工学同窓会  
(幹事長 高島英幸)

7系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127

口座名 豊橋技術科学大学同窓会

## 同窓会平成7年度収支報告および平成8年度予算案

項 目	平成7年度予算案	平成7年度決算	平成8年度予算案
収 入 の 部			
前 年 度 繰 越 金	5,936,234	5,936,234	6,685,570
入 会 金	3,100,000	1,625,000	2,000,000
預 金 利 息	70,000	65,298	70,000
会 報 廣 告 代	70,000	0	0
名 簿 廣 告 代	—	—	30,000
名 簿 代	—	—	350,000
小 計	3,240,000	1,690,298	2,450,000
収 入 合 計	9,176,234	7,626,532	9,135,570
支 出 の 部			
会 報 經 費	650,000	680,432	690,000
印 刷 代	600,000	642,000	650,000
投 稿 謝 礼	40,000	38,432	40,000
廣 告 依 頼	10,000	0	0
役 員 會 經 費	120,000	1,610	50,000
通 信 費	10,000	1,610	10,000
資 料 作 成 費	10,000	0	10,000
役 員 手 当	100,000	0	30,000
卒 業 記 念 パ ー テ ィ ー	150,000	150,000	250,000
技 科 大 祭 後 援	100,000	100,000	100,000
名 簿 管 理	480,000	0	400,000
庶 務 經 費	100,000	8,920	100,000
20 周 年 記 念 事 業 經 費	—	—	1,000,000
名 簿 印 刷 代	—	—	860,000
名 簿 郵 送 代	—	—	50,000
名 簿 発 送 作 業 代	—	—	10,000
總 會 案 内 葉 書 代	—	—	200,000
總 會 案 内 印 刷 代	—	—	100,000
小 計	1,600,000	940,962	3,810,000
次 年 度 繰 越 金	7,576,234	6,685,570	5,325,570
支 出 合 計	9,176,234	7,626,532	9,135,570

## \* 豊橋技術科学大学同窓会会則 \*

### 第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

### 第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 会員名簿の発行
  - (2) 会報の発行
  - (3) 総会の開催
  - (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

### 第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
  - (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
  - (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教員
  - (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
- 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

### 第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
- (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
  - (2) 会長 1名
  - (3) 副会長 2名 (庶務担当)
  - (4) 理事 原則として各系2名
  - (5) 顧問 若干名
- 第7条 本会の役員の選出は、次の各号に定めるところにより行う。
- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
  - (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
  - (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
  - (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員の任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

### 第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
  - 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
  - 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

### 第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
- 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
- 第14条 理事会は次の事項を審議する。
- (1) 本会の事業の運営に関する事項
  - (2) 事業報告及び決算報告
  - (3) 事業計画案及び予算案
  - (4) 賛助会員の推薦に関する事項
  - (5) その他、本会の運営に関する議案
- 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

### 第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
- 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
  - 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
  - 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
- 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
- (1) 会則の制定・改廃
  - (2) 事業計画及び収支予算案
  - (3) 事業報告及び収支決算案
  - (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
- 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

### 第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
- 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
- (1) 入会金 5,000円
  - (2) 終身会費 10,000円
- 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
- 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
- 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

### 第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
- 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が決める。

### 付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学生会は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

---

広報担当者 様

## 豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、広報担当者にお口添えくださいますようお願い申し上げます。

発行後、見本として5冊は無料でお送りしますが、その他は有料（500円/冊）となります。6冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1996年12月15日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 近藤 秀範

---

### 記

---

◎同窓会誌：B5版、30ページ程度、白黒

(1) 内容…学内近況報告、研究室紹介、事務官より 等

(2) 発行…年1回

(3) 部数…約6000部 \*今後400部/年で増加

◎広告掲載料：5万円/1ページ、3万円/0.5ページ

◎送 付 先：豊橋技術科学大学同窓会

愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 〒441

◎締め切り：'97年9月末日

◎支払い方法：銀行振込 \*発行後、請求書をお送します。

◎問い合わせ先：下記まで郵送にてお願いします。

〒441 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学同窓会 事務局